

国語科 学習指導案

学 級:1年B組 (23名)

授業者:武藤 佑佳

1. 教材(単元)名 星の花が降るころに

2. わらい 美しい風景や人物の行動の描写を読み取ることを通して、「夏実」とまた新しい関係を築きたいという「私」の思いに気づき、「私」の心情の変化についてまとめることができる。

3. 本時の展開 ( 6 / 7 )

過程	学習活動	指導・援助
<p>つかむ</p> <p>考えをもつ</p> <p>深める</p> <p>まとめる</p>	<p>1. 前時を振り返る。 ・「溶け出していた魂がもう一度引っ込み」というところから、「私」は「戸部君」のことを少し見直すようになったことがわかった。</p> <p>2. 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「私」の「夏実」に対する思いはどのように変わったろう。</p> </div> <p>3. デジタル教科書の範読を聞く。</p> <p>4. 一人読みをする。 ○主人公の夏実に対する思いと、それが表されている風景描写を読み取る。 ・「半円球の宙にまたたく星みたいに光っていた」というところから、「私」が前向きで明るい気持ちになっているとわかる。 ・「星形の花を土の上にばらばらと落としした」というところから、「私」は夏実との思い出に縛られずに生きようという思いに変わった。 ・2場面で大切にしていた「お守りみたいなビニール袋」の中身が4場面では「小さく縮んで、色があせている」というところから、「私」は大切にしていたものもいつかは変わっていくことに気付いた。</p> <p>5. 全体交流をする。 ○1場面の銀木犀の描写や2場面の「私」の行動と比較して、思いの変化に気付く。 ・1場面での銀木犀の花は「白く小さな星の形」をしていて、「私」にとって「夏実」との思い出は輝くものだったが、4場面での銀木犀の花は「小さく縮んで、色がすっかりあせて」いて「私」は「夏実」だけにこだわらなくなった。 ・2場面では「お守りみたいな小さなビニール袋」を「そっとなでている」から「夏実」と前みたいに仲良くしたいと思っていたけど、4場面ではその中身を「土の上にばらばらと落とし」しているから、「私」は「夏実」との関係にこだわらずに生きていこうという思いに変わっている。</p> <p>6. 本時の学習をまとめる。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「私」はこれまで夏実と拾った銀木犀をお守りにしていて、夏実との関係を絶対に修復したいと思っていた。しかし、4場面ではそのお守りにしていた花びらを土の上に落としていて、「私」は「夏実」とまた新しい関係を築ければいいやという思いに変わった。</p> </div>	<p>・風景の描写から「戸部君」に対する思いを読みとったことを想起し、本時の内容をイメージできるようにする。</p> <p>・生徒との対話を通して、本時の課題を引き出す。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>(研究内容Ⅰ:単元指導計画の工夫)</b></p> <p>毎時間の課題化までの流れを同じにし、生徒たちが課題を考え合うことで、より課題意識を明確にする。</p> </div> <p>・机間指導の際、活動が止まっている生徒と風景の描写を探し、描写の印象を問うことで「私」の思いをつかむ。</p> <p>・ロイロノート上にヒントカードを設定しておくことで、自分で学習の進度を調整して読み取りを進めることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>(研究内容Ⅲ:個別最適な学び)</b></p> <p>個の読み取り方に応じて援助ができるようヒントカードを準備し、個人でも学びが深められるようにする。</p> </div> <p>・電子黒板に線を引き発表することで、考えの根拠を明確にする。</p> <p>・前時までとつなげて発表している生徒の発言を価値付け、これまでの描写と比較して考えるきっかけとする。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>(研究内容Ⅱ:協働的な学び)</b></p> <p>生徒の発言を価値付けることで、仲間の考えを聞いて、自分の見方を広げられるようにする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>美しい風景の描写や人物の行動をもとにして、「私」の思いが前向きに変化したことを読み取っている。(思・判・表)</p> </div>

## 単元構想図

### 【単元のねらい】

美しい風景の描写や人物の行動をもとに、主人公の思いを読み取ることで、情景描写を使って物語の続きを書くことができる。

**単元を貫く課題：物語の続きを書くには、どのような表現の工夫に着目するとよいだろう。**

### 単元導入時の意識

物語や小説では、「怖かった」「黙ってしまった」など、登場人物の心情や行動を表す言葉に着目したり、大まかに場面の展開をとらえたりすることが、人物の関係を整理しながら読むために大切だ。

#### 第1時 「星の花が降るころに」

①課題：単元を貫く課題を知ろう。

②活動：描写と人物の思いを結び付けて、物語の続きを書くという、単元の出口の活動を知る。

#### ③生徒の意識

「晴れた空」を書くことで、人物の前向きな気持ちを表すことができた。風景の描写と人物の思いを結び付けて、楽しい物語の続きを書いてみたい。

#### 第2時 「星の花が降るころに」

①課題：「私」と「夏実」はどのような関係だろう。

②活動：人物の行動や描写をもとに二人の関係を捉え、「私」の「夏実」に対する思いを想像する。

#### ③生徒の意識

二人は仲が良く、私は夏実に対して一緒にいて楽しいと思っている。それは銀木犀の花が「白く小さな星の形」と書いてあるところから想像でき、描写と人物の思いはつながっていることが分かった。

#### 第3時 「星の花が降るころに」

①課題：「私」は「戸部君」に対してどのような気持ちをもっているだろう。

②活動：人物の行動や会話をもとにして「私」の「戸部君」に対する思いを読み取る。

#### ③生徒の意識

「戸部君をにらんだ」「押しのけるようにして」というところから、戸部君のことを「よくわからない」人で迷惑に思っていることが分かった。

#### 第4時 「星の花が降るころに」

①課題：「私」は「夏実」に対してどのような気持ちをもっているだろう。

②活動：人物の行動や描写をもとにして「私」の「夏実」に対する思いを読み取る。

#### ③生徒の意識

「お守りみたいなビニール袋」「貧血を起こした時に見える白々とした光景」というところから、夏実を大切に思っていて、仲直りできなかったことがとてもショックであることが分かった。

#### 第5時 「星の花が降るころに」

①課題：「私」の「戸部君」に対する思いはどのように変わっただろう。

②活動：人物の描写や風景の描写をもとにして、「私」の「戸部君」に対する思いを読み取る。

#### ③生徒の意識

「魂がぬるぬると溶け出してしまいそう」という描写から「戸部君」のことが憎らしくてしかたがないと思っていたけど、「溶け出していた魂が引込み」という描写から、戸部君も悪い人ではないという思いが変わった。

#### 第6時（本時）「星の花が降るころに」

①課題：「私」の「夏実」に対する思いはどのように変わっただろう。

②活動：人物の行動や情景描写をもとにして、「夏実」に対する「私」の心情の変化を読み取る。

#### ③生徒の意識

銀木犀の葉っぱが新しくなることを知ったり、花を土の上に落としたりするところから、私は夏実とまた新しい関係を築ければいいやという思いが変わっていることが分かった。

#### 第7時 「星の花が降るころに」

①課題：描写と人物の思いを結びつけて、続きの物語を書こう。

②活動：「銀木犀」の描写を使って、この後の作品がどう続いていくかを考えて書く。

#### ③生徒の意識

「私」が「夏実」と再び仲良くなるという続きにするために、「銀木犀の花が今年も変わらずきれいに咲いた」という表現を使った。情景と思いを結び付けて書くことができた。

### 単元出口の意識

- 人物の気持ちが直接書かれた部分だけでなく、風景の描写などからも登場人物の気持ちを読み取ることができた。
- 複数の場面の描写を結び付けて読むことで、主人公の思いの変化に気付き、作品のよさを深く味わうことができた。